

の来賓あいさつがありました。

工藤沖縄鑑監督署安全衛生課長からは、安全週間の趣旨説明と「2025年6月施行の熱中症に係る法改正への対応について」と題して、県内の熱中症の災害発生状況、法改正の内容、熱中症対策等の説明がありました。

本大会の「安全の誓い」が日本クレーン協会沖縄県支部の金城専務理事より読上げられ、参加者全員の総意により採択され、建災防沖縄県支部中部分会の安全指導者の比嘉強氏が代表となって参加者全員で指差唱和をし、ゼロ災を誓いました。



北部地区

6月11日(水)、北部会館3階研修室にて令和7年度北部地区安全管理推進大会を開催し、55事業場114名の参加がありました。

参加者全員で黙とうを捧げたあと、沖縄産業保健総合支援センター大村副所長のあいさつで開会しました。

渋谷雄太名護労働基準監督署長からは「令和6年、沖縄県全体では、8名の方が労働災害により尊い命を落とされており、そのうち4名は当署の管内で発生した災害によるもので、熱中症による死亡災害も発生しております。また、令和6年の休業4日以上死傷者数は112人と、過去最多となり、たいへん深刻な状況となっています。トップの皆さまが安全衛生活動に関心を持ち、現場にしっかり声を届ける。それが、職場全体の意識を高め、事故の未然防止につながります。安全衛生の取り組みは、決してコストではなく、従業員の皆さんの安心や信頼、そして企業の成長や持続性につながる、非常に大切な未来への投資であります。」旨の来賓挨拶がありました。



酒井名護監督署監督安全衛生課長からは、安全週間趣旨説明の他、6月1日に施行された職場における熱中症対策の強化について、法改正の趣旨等の詳しい説明がありました。



特別講話は、沖縄気象台地域防災推進課リスクコミュニケーション推進官奥平貞雄氏による「災害への備え～防災気象情報で身を守る～」と題して行われ、気象情報の見方や、先日の津波警報での避難方法について車社会だからこそ起きてしまう問題など改めて考え対策しなければいけない注意喚起となる貴重な内容でした。

(株)屋部土建の仲松ケイ氏より大会宣言が読み上げられ、労使一体となって労働災害のない職場づくりに邁進することを宣言し採択されました。

指差し唱和では、琉球セメント(株)屋部工場仲村教良氏の声出しで、参加者全員で安全週間スローガン読み上げて新たに団結を図りました。



最後に、樽岡誠労働基準協会北部支部長より参加者への感謝の言葉のあと「今日のこの大会を契機に、みんなで健康で事故のない職場づくりに取り組み、安全週間はもとより、これから一年間、ゼロ災害を是非達成しましょう。」と閉会挨拶がありました。

宮古地区

6月4日(水) 宮古島市中央公民館多目的ホールにて、令和7年度宮古地区安全大会を開催し、35事業場96名が参加しました。

参加者全員で黙とう後、友利勝人建災防沖縄県支部宮古分会長の挨拶により開会し、渡真利勝沖縄県労働基準協会宮古支部長より、「熱中症対策として厚生労働省より6月から事業所に対策を義務付けており、各事業場における対策環境整備、取り組みをお願いしたい。」旨あいさつがありました。



瀬底正亮宮古労働基準監督署長からは、「労働災害の発生状況は、宮古地区も沖縄県内と同様の傾向にあり、令和5年、6年で死亡数3名となり、憂慮すべき事態となっております。宮古労働基準監督署としては、各労働災害防止関係団体をはじめ、事業者、発注者並びに関係業界団体と連携を図り、労働災害防止対策の取組みを積極的に推進していきます。」旨あいさつがありました。また、「働き方改革(時間外労働の上限規制)への対応」と題して、時間外労働・休日労働の上限、36協定、休憩・休日・休息及び安全衛生管理体制についての説明がありました。



宮古監督署の中野監督官からは、安全週間の趣旨、災害事例と対応について説明があり、宮古地区における死亡災害